

沿道環境向上に向けた雑草管理について

1. 事業の背景

本市において機械による草刈り延長は約 210 km（年 2～3 回）、人力による草刈り面積は約 12,400 ㎡（年 2 回）と膨大であり、近年は気候変動の影響等による雑草の繁茂速度の変化、範囲の拡大など年 2～3 回の除草のみでは、適切な道路管理が困難な状況となっている。

さらに、作業員の人員不足や高齢化、熱中症リスク、物価上昇による費用の増大などの社会的要因や刈払い機使用による飛び石などのリスクなどの観点からも、草刈り以外の雑草管理手法を検証し、効率的な維持管理対策を構築する必要がある。

2. 除草剤試験散布の実施

- 1) 実施日：令和7年10月29日
- 2) 実施箇所：奥御料線（郊外部路肩）
- 3) 実施方法：除草剤メーカーによる人力散布
- 3) モニタリング結果：無処理箇所は最大 30 cm 程度の雑草が繁茂、散布箇所はほぼ枯れた状態を保っており、一部に新たな雑草が繁茂しているのみ。

無処理
R8. 5. 20



全景



除草剤散布
R8. 5. 20



3. 事業の概要

雑草の繁茂箇所、種類、雑草以外の植物等への影響、安全性などの条件から試験施工路線（区域）を選定し、除草以外の雑草管理手法を試行的に実施し、効果の検証を行う。

○事業費 1,074 千円

○試験路線（区域）の選定条件

- ・歩行者交通量が少ない
- ・車両や歩行者の通行に支障をきたしている
- ・効果の検証が確認しやすい
- ・地域住民や町内会等の同意が得られる
- ・刈払い機の使用が困難な縁石や防護柵等の道路構造物周辺 等

○手法

- ・街路樹等の植物がある植樹帯等の区域・・・マルチング材の敷設

※マルチング材：土壌や用土を覆う資材

本事業では北海道産の完熟堆肥（広葉樹）糊剤入りを使用

- ・上記以外・・・除草剤散布

※除草剤：本事業では農薬登録されており、一般的に販売されているアミノ酸系除草剤
（主成分：グリホサートカリウム塩 48%）を使用



マルチング材施工前



マルチング材施工後

4. 効果の検証方法と期間

1) 検証方法

- ・マルチング材敷設～雑草の繁茂状況（有無）、材料の破損・流出の有無、街路樹への影響等
- ・除草剤散布～雑草の繁茂状況（高さ、種類、繁茂時期の変化）、除草回数、土壌の状況等

2) 検証期間

マルチング材の耐久性、除草剤散布の安全性、草丈・種類の変化、適用可能な雑草、適切な希釈量などを確認するためには3年程度は必要

		R8	R9	R10
マルチング材	試験施工	→		
	効果検証	→		
除草剤	試験施工	→		
	効果検証	→		
ガイドライン作成 （効果確認の場合）				→

5. 雑草管理の目標

短期的に枯らすのが目標ではなく、長期的に維持管理がしやすい状態を創出し、良好な沿道環境を保つことを目標とする。

【維持管理がしやすい状態】

- 繁茂速度の低減
- 背丈の低い雑草への変化
- 雑草量の減少

